

	講師：池田友美（新仁会病院・看護師）
15：10～16：40	9 喀痰吸引・経管栄養に必要なケア 慢性期医療における口腔ケア 講師：藤本浩子（聖和苑・看護師）
16：50～18：20	慢性期医療におけるリハビリテーション介護 講師：橋本康子（千里リハビリテーション病院・医師）

平成26年10月23日（木）

9：00～11：00	1 1 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説① ・喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ ・吸引の技術と留意点 講師：脇山千鶴（聖和看護専門学校・看護師）
11：10～12：40	1 1 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説② ・吸引の技術と留意点 講師：脇山千鶴（聖和看護専門学校・看護師）
13：30～15：00	1 1 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説③ ・吸引の技術と留意点 一連の手順と留意点 講師：脇山千鶴（聖和看護専門学校・看護師）
15：10～17：10	1 2 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説① ・経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ ・経管栄養の技術と留意点 講師：渡邊幸子（聖和看護専門学校・看護師）
17：20～18：50	1 2 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説② ・経管栄養の技術と留意点 講師：渡邊幸子（聖和看護専門学校・看護師）

平成26年10月24日（金）

9：00～10：30	1 2 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説③ ・経管栄養の技術と留意点 一連の手順と留意点 講師：渡邊幸子（聖和看護専門学校・看護師）
10：40～12：10	1 0 喀痰吸引・経管栄養における報告および記録 講師：渡邊幸子（聖和看護専門学校・看護師）
13：15～14：15	筆記試験
14：30～16：30	AED救急蘇生法演習・評価 講師：日本光電工業(株)
16：30	採点結果発表、演習オリエンテーション

平成26年11月6日（木）

13：00～18：00	シミュレータ演習・評価 喀痰吸引：口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内部吸引 経管栄養：胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養
-------------	--

平成26年11月7日（金）

9：00～12：30	シミュレータ演習・評価 喀痰吸引：口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内部吸引 経管栄養：胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養
13：30～16：00	シミュレータ演習・評価 喀痰吸引：口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内部吸引 経管栄養：胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養

2-4. 第4回神戸会場アンケート結果

平成26年10月18日【1日目】

講義 I 保健医療制度とチーム医療 伊豆敦子
重要な部分を何度も説明していただき、とてもわかりやすかったと思います。
制度など難しい話が多くついていけなかったが、新しい変更点などが聞けて良かった。介護保険の内容はもう忘れていたことも多かったので、再確認できた。
重要な点を何度も言っておさわりやすかったです。少々早口だったので、聞き逃した所がありました。
介護職員等によるたんの吸引制度の内容をより詳しく知ることができました。もっと深く学んでいきたいと思いました。
高齢者に対するチーム医療の必要性を知り、連携の大切がわかった。各医療スタッフの専門性向上の大事さを知った。
なぜ在宅への退所が必要なのかのわかり、とても良かったと思います。また今後は高齢者が増加し、介護の質というのも関係してくると思うので、今後はもう少し考えて介護をしていくべきだと思います。また今後は胃ろう・喀痰吸引の利用者も増加し、介護職員も医行為が含まれる対応が必要となってくるので、職員のレベルと質を上げ、利用者の生活をより良くしていくことを考えていかなければいけないと思いました。
正直内容が難しく、話についていくのに必死でした。ただ先生から大事なポイントを話していただいたので、あとでゆっくり復習ができそうです。
時間がなく資料の内容も飛ばされる所が多々あったため、もっと聞いてみたい内容が沢山ありました。診療報酬などは今までほとんどわからなかったので、今回の講義で少し理解することができました。
講義内容の量が多く、テンポが速かったためわかりにくいと感じました。
高齢者人口の増加やそれを支援していく若年層の減少で、医療従事者だけでなく、介護職や高齢者を取り巻く地域の人々にも医療に対する知識を持っていただき、共に支援していくことが必要になってきている。今回研修を受けている喀痰吸引は医療行為であり、研修を修了すれば介護士ができるということですが、看護職や医師との協力は欠かさずに安全を確保できる状況にする必要があると思います。
医療・福祉分野において、沢山の種類があり、その職種の方々との連携が大切であることがわかりました。
医療制度の改定など勉強不足な部分が多々ありました。施設で働いていく上で知っておかなければならない所はもう少し勉強し、他職種と連携してチーム医療を行っていききたいと思います。
「保健医療制度とチーム医療」という講義において「チーム医療」というワードがいくつも出てきましたが、自分だけの判断で吸引を行うことは大変危険であるため、必ず医師や看護師の指示の上で動かなければいけません。それに伴い、他職種の方と協力し合うことで人の命を助けることができる確率は大いに上がるケースも多々あると考えられます。
苦手な内容だったため、難しかった。もっと勉強しなくてはいけないと思いました。
医療負担や診療報酬制度、たんの吸引等について少し理解できました。
講義は理解しやすかったが、範囲が広いのでついていくのが難しいと感じた。質疑応答の時間も設けた方が良いのではないのでしょうか。
介護職として聞き慣れない言葉が多く、理解するのに少し時間がかかりそうです。点数などは馴染みがないので少し難しかったですが、重要な箇所をしっかりとご指導いただき、とても勉強になりました。
範囲が広いぶん、ポイントを押さえることが難しい。早く進んでしまうので、なかなかついていけなかった。
知らない医療制度のこと等が学べて良かったと感じています。わからないことばかりですが、少し医療に触れた気がしました。
どの業務においても連携の必要性があり、それがより良いケアに繋がると感じます。
医師・看護師・介護士の役割をよく話していただき、良かったです。
保険金や医療費の金額など細かく説明していただき、とてもわかりやすい内容でした。また、施設や自宅での喀痰吸引の重要性、各職種が行っても良い吸引の種類も様々なのだと理解できました。
介護職員によるたんの吸引の関わり方がわかった。連携を持ち業務分担し、患者の状況に的確に対応した医療を提供することが大切だと感じた。
今回の介護職員等によるたんの吸引等の実施研修が導入される背景についてわかりやすく教えていただいた。
難しい内容でしたが、わかりやすくポイントを教えていただき、集中して聴講することができました。他分野に関してもまた教えていただきたいと思いました。
今現在急速に高齢化が進み、1人の若者が1人の高齢者を支えていく社会になっていく中で、しっかりと知識を付けて多職種との情報共有を行うことにより、良いサービスを提供していきたいと思いました。
医行為に関する法律ではとても力を入れて講義していただいたので、よく理解できた。介護職は医師の指示の下、一定の行為を一定の要件を満たした場合に限り、一部の医行為の補助業務ができることがわかった。
2時間という短い時間の中で保険医制度とチーム医療について多くのことを学ぶことができたと思います。
保険医療制度の詳しい内容がわかりました。今後もっと医療サービスが充実していけば良いと思いました。医行為はひとつ間違えばリスクもあるということを中心に留めおきたいと思います。
医療保険についてはほとんど知らないので参考になりました。
介護職員が喀痰吸引等を行うには、医療職の方との連携や信頼関係が大切だと思います。介護職員がなぜ喀痰吸引を行うようになったのか、そのリスク等をわかりやすく説明していただけました。
広い範囲の内容でしたが、とてもわかりやすい説明でした。介護士も幅広い知識が必要だと気付かされました。今後知識を増やして見聞を広げたいと思いました。

介護福祉士の試験の時に勉強していたことを改めて思い出して、良い勉強になりました。これからの吸引に役立つ内容だと思えます。

講義Ⅱ 人間と社会 桑名斉

コミュニケーションの大切さ、挨拶の大切さを改めて感じることができました。また桑名先生の病院の患者・家族へのケアの部分にとっても共感しました。

業務の流れが優先になってしまっているの、忘れがちな考え方を聞いて良かった。講師の病院でのイベントやアニマルセラピーなどは自分の病院ではあり得ないことなので、良い意味でとてもショックだった。

難しい内容でしたが、わかりやすく話されていたと思います。途中で写真を見せてくれたのがとても良かったです。化粧療法は取り入れたいと思いました。

コミュニケーションの難しさや大切さを改めて理解しました。所属がデイサービスなので特に気を付けている部分ではありますが、職員へも伝達講習をさせていただきたいと思います。

バイオエッセンスの原理の意味を知り、それをできるようになる重要性がわかりました。コミュニケーション能力も職場で活用できるようにしていきたいと思います。

コミュニケーションや相手を理解することが大切だとわかりました。

利用者に対しての接し方が再度理解できたと思います。コミュニケーションの接し方により、相手の気持ちに変化することにも理解が深まりました。利用者や介護の接し方に対して上下関係ができてしまったと思い、今後はもう少し考えてコミュニケーションを図るべきかと思いました。

基本的なことですが、改めて考え直すことができました。

当然のことや当たり前のことではあるけど、改めて人としての思いや考えを考えさせられました。共感することなど色々また自分を考え、見つめ直そうと思います。

利用者の感情を一番大事にし、利用者に関心から寄り添えたら良いなと思いました。

ケアをする相手の気持ちを尊重することは、基本的なことだと思いますが、実際に自分ができているかと考えると、反省する点が多いように感じました。利用者や家族と信頼関係が築けるよう日々のコミュニケーションに努めていきたいです。

患者や家族とよくコミュニケーションを取ることが大事だと思いました。

患者と接する上での大切なこと、関わって行く上での気を付けないといけないことがわかりました。これからはもっと患者の話を聞いていこうと思いました。

個人の尊厳を守り、尊重することは大切だと思いました。入所者や患者が孤立・孤独を感じないように声をかけ、コミュニケーションを図るよう心掛けようと思いました。

「人間と社会」という講義において、仕事をしていく中でコミュニケーション能力は欠かせないものだと思います。自分一人の力だけでは限界がありますし、周りの方との協力を経て成り立つものだと思います。改めて「コミュニケーション」というものがどんなに素晴らしいものなのかを実感することができました。

共感とコミュニケーションは普段から大事にしなければいけないと思いました。

コミュニケーションの技術や気持ちの大切さをしっかり学べました。難しい言葉もあったので、しっかり復習したいと思います。

病院での緩和ケアなどの取り組みが参考になりました。

コミュニケーション力がとても重要と言う認識はあるが、現場できているか見直す機会ができた。また、病院の取り組みなども参考になった。

「何を大切にしたいか」は患者や家族により違う。その気持ちを理解することが必要であると感じた。

継続性の尊重、自己決定の尊重・自己決定の尊重、残存能力の活用、入所者のケアに役立てて行きたいと思いました。

大変丁寧にご講義いただき、コミュニケーションの重要性についてもう一度確認することができました。入居者の苦しみを理解しようとする姿勢は介護において基本であり一番大切なことだと思います。

他施設の取り組みなどの話が聞いて良かったです。

基本的なコミュニケーションが大事だと感じた。満足度を高めるにはチームアプローチが重要だと思います。

患者や利用者に対する現場でのチームスタッフとのコミュニケーションの重要性や基本的な姿勢などがわかりやすかったです。ただ、勉強のポイントが少しわかりにくかったです。

人と人との関わり方や基本的なことがはっきりわかった。医療や介護に対して一番大切な基礎となるものを教えていただいた。

患者がづらい時に共感することがすごく大切で、どのようにして欲しいのか意見を聞くことの重要性がわかり、当たり前のことをし、理解していくことで、一番良い関係を築いていくことができると思った。

多様な価値観に基づく意思決定プロセスは大切であること、インフォームドコンセントと心の機能について、患者や家族に対する説明と同意のお重要性、全てにおいて患者の気持ちを理解することが大切ということがわかった。

個人の尊厳と自立、サービスにおける3原則と介護をする上での大事なことを改めて教えていただきました。

結婚式の話はとても印象深かったです。今まで自分が過ごしてきた自分らしい過ごし方を崩さないことは大切なことなのだと改めて思いました。心を磨いていきたいです。

概念や理念は大切だと思いますが、あまり理解できていないのではないかと時々不安になります。先生のお話はわかりやすく、スムーズに聞くことができました。

高齢者サービスの質を保ちながら提供するには、継続性と自己決定の尊重を行い、その方の残存能力の活用が大事であると

わかりやすく教えていただきました。
人としての基本的なことを再度確認できました。宮沢賢治の詩には改めて感動してしまいました。この心を忘れず、日々仕事をしていきたいと思えます。
リラックスする時間を取り入れていただき、集中力が途切れることなく聞くことができました。ありがとうございました。
まず人として一番大事なことを学び、振り返ることができました。
お互い人間であることを忘れずに同居者へ対応することの重要性を再認識することができました。
講義中に自己紹介や病院の紹介などを取り入れ、緊張を和らげる配慮がされていて良かったと思えます。

講義Ⅲ 安全な療養生活 榊原麻希
色々な考え方ややり方を知ることができました。聞くだけでなく、考えさせられるとてもわかりやすい講義でした。
普段の職場でのことを織り交ぜて教えて下さり、口調も聞き取りやすかったです。
先生の体験のお話などもあってわかりやすかったです。インシデントレポートの必要性を感じました。気付きを多くし、事故を防げるように支援したいと思えます。
説明がとてもわかりやすく、参加型にされたのでとても楽しく受けさせていただきました。とても大事なことなのでもう一度見直して頭に入れておきます。
医療や介護の場に 100%危険のない状態を作ることはできないが少なくすることは可能とわかり、実践していく必要があるとわかったので良かったです。
AEDを使用したことがないので、この機会にしっかり覚えて帰ろうと思えます。
講義内容はわかりやすかったが、途中で休憩があれば良かったと思う。
利用者との間には常にリスクがあるため、常に危機管理を持って仕事をしていかないといけないと再認識できました。また自分自身の技術を常に考えながら仕事をしていき、利用者に対しての解除を考えるべきだと思った。仕事をしている上でリスクは避けられないが、失敗を隠さず常に誠実な気持ちで仕事をすべきだと思いました。
研修生のお話を聞いたりでき、講義の内容も基本を1から教えていただき、分かりやすかったです。
後方座席まで声が聞こえず、後半のスライドなしのプリント確認時に困った。内容自体はとても有意義で身になった。
とてもわかりやすく、「人の命を預かり救うということ、また自信のない行為はしない」というお話はもともとだと思いました。自分の行動には自信を持って行うことということがわかりました。
質問形式で講義を進めていただいたので、楽しく学ぶことができました。
一つ一つの行動にリスクがあるということを考え、仕事に当たる必要があると思えました。
大きな事故を予防するのは、普段からの小さな気付きが重要だと認識できました。
丁寧な説明と DVD でわかりやすかったです。自分自身の職場でも何かあった時に対応すべきなのか改めて確認しながら介護しようと思えました。
医療制度の改定など勉強不足な部分が沢山ありました。施設で働いていく上で知っておかなければならない所はもう少し勉強し、他職種と連携し、チーム医療を行っていきたいと思えます。
「救急蘇生」という講義において、AED の使用方法や胸骨圧迫などの分野がありましたが、正しい手順ですることが何よりも大事なことだと思えます。人の生死に関わっている場面に遭遇した時でも迷わず率先して行うことが「人を助けようとする心があるか？ないか？」ということに繋がっていくと思えます。この先仕事をしていく中で勉強になりました。
とてもわかりやすい講義でした。ヒヤリハットレポートは事故が起こってから書くものだと思っていたので、講義を聞いて本当の意味を初めて知りました。
ヒヤリハットやアクシデントの意味が詳しく理解でき、救命についてもわかりやすく説明していただいた。声も聞きやすくてよかった。
ヒヤリハット・アクシデントなど自施設でも行っている点から現場での比較や再確認ができて良かった。
安全とリスクマネジメントを理解した上での喀痰吸引や経管栄養の実施をしていくことが必要であると学んだ。
ヒヤリハットの大切さがよくわかりました。今までは書こうと思っても書かないことが多々ありましたが、これからはもっとヒヤリハットを書くことにします。
ヒヤリハットレポートは、以前は「事故報告書」という名前でマイナスなイメージがありましたが、情報を発信し、重大な事故を防ぐためにとても大切なことなのだとよく理解できました。日々インシデントやアクシデントに気付き、AED の使用方法などもよく勉強していきたいと思えます。
医療や介護は 100%危険をなくすことはできない。介護従事者は安全を守るように確実な知識と技術を身に付け、信頼される人であることが大事である。「安全」の視点を忘れずに提供していくことが重要であるとする。
とても丁寧に身近な例も出して教えていただき、わかりやすかったです。またポイントもゆっくりしたペースで教えていただいたのでメモしやすかったです。
理解しやすい言葉とテンポで教えていただき、わかりやすかったです。看護の面からの視点もわかりました。現場での具体的な内容で役に立ちそうだと思います。
喀痰吸引や経管栄養をする中でしっかりと予防対策をすることが大切である。それでも事故が起きた場合は誠心誠意、確実に対処することが重要だと思った。重大な事故を減らすためにヒヤリハットを書くことは大切なことだと思った。
早く応急手当が開始されればそれだけ救命効果が高くなる。開始が遅れたとしても、少しでも蘇生の可能性があればその可能

性に懸けた積極的な応急手当が望まれることがわかりました。
わかりやすく吸引や緊張時の対応方法を学ぶことができ、大変良かったです。
リスクとは常に危険と隣り合わせであり、介護を行っていく上で外せないものであることを忘れないでいたいと思います。救命救急に居合わせたことはないのですが、実際に会おうことを考えると怖いのです。冷静な判断をできるかはわかりませんが、次回の演習できちんと覚えたいと思います。
何故ヒヤリハットやアクシデントの報告を行っているのか、リスクマネジメントのわかりやすい考え方や救急蘇生の行い方を教えていただきました。
早期発見と早期対応の必要性がよくわかりました。実際にそのような現場に立ち会うと、できるか不安ではあります。利用者が不安にならないよう、知識と自信を身に付けたいと思いました。
具体的な場面を交えてお話していただいたので、イメージしやすかったです。ありがとうございました。
職場で1度くらいしかAEDをしたことがないので、良い勉強になりました。
ヒヤリハット・アクシデント報告書を書く目的は、次に同じような事故が起きないように防止するために必要なことであり、悪いことではないということを再認識できました。
救急蘇生は日常生活においても大変関わりのあることなので、DVDも含めAEDについても勉強になりました。

講義Ⅳ 慢性期医療における医療事故対策 井川誠一郎
最後のディスカッションがとても良かったです。自分の考えを相手に伝えたり、他人の考えを知れたり良い機会でした。
KYT(危険予知訓練)のグループワークで色々な意見があることがわかり、面白かったです。
グループワークを通して危険箇所を沢山見つけることができました。RCA(根本原因解析)分析は施設で取り入れたいと思います。
グループワークはとても良かったです。色々な視点があることに気付きました。講義もすごくわかりやすかったです。
医療事故対策の必要性と分析によって事故を防げることを知りました。事例を考えることで意見を出し合えて良かったです。
グループディスカッションを行い、個人で見る目と複数で見る目はそれほど変わらないことがわかりました。
現在の医療制度や色々な医療事故等のシステム上で問題の原因があり、変化してきたのだと思った。自分自身も仕事をしている上で常にリスクを考えて仕事に取り組んでいくべきだと考えられました。
実際に自分達で考えることがあり、話を聞いているだけよりも頭に内容が残りがやすく、自身の仕事も改めて気を付けていこうと思いました。「見る気があるかどうか」という先生の言葉が印象に残っています。
グループディスカッションがとても良かったです。自分で考え、他者と意見共有することは大事だと改めて感じました。「もしも」の時の気付きや状況判断について勉強できました。
わかりやすい講義でした。最後のグループワークでは、グループで色々な意見や目線で話し合えて色々なことに気が付けて良かったです。
グループワークで気付きの意見を出し合うことで、自分では気づかないことも発見できて勉強になった。
1つの事例にも沢山の危険が潜んでおり、日々の気付きから危険回避に繋げていくことは大切だと思いました。
普段からスタッフ同士でリスクを話し合える環境が必要だと思いました。
ちょっとしたことでインシデントを提出し、多くの職員と問題点について話し合おうと思いました。色々な意見を交わすことが大切だと思いました。
「ヒヤリハット報告書の提出をしたくない」と考えている職員はたくさんいると思います。「たくさん出したら責められるのではないか？」などと思ってしまうからだと思います。しかし、ヒヤリハットで報告をしていたら、事前に事故を防ぐことができたのではないかと考えられるアクシデントも多数あります。大きな事故を起こさないためにも、ヒヤリハット報告書は重要であり、「事前に気付く視点」を養っていかなければいけないと思います。人間は完璧ではなく、間違いを犯すものであるということを自覚して、十分な確認作業をしながら行うことを心掛けなければいけないと改めて思いました。
リスクマネジメントの講義を通して、危険を予知した上で仕事をするというのはどんな仕事に対しても重要な項目だと思います。先に異変に気付くことで大事故を防ぐことが可能になると考えます。仕事中はいつも危険を予測した上で行動することが大切だと思いました。
KYT 事例で色々な意見が聞けたり、気付かされたりすることもあり、とても良かったです。
医療事故・転倒リスクの可能性が周りには沢山あると改めて思いました。
医療事故の怖さを沢山知りました。グループワークはとても良かったです。初日なので緊張と慣れてないことにより積極的な意見が出にくかったような気がします。
KYTも実施できて良かった。リスクマネジメントは現場でも重要な事項で、利用者の安全確保に繋がるので活かしていきたい。
ディスカッションすることにより事故防止・早期発見に繋がっていくと思いました。
「見る気がなければ何も見えない」という先生のお言葉はその通りだと思いました。「聞こう・話そう・伝えよう」を胸に留め、帰ってスタッフとよく話し合おうと思いました。
医療ミスによる死亡件数が3万人という多さには驚きました。よりミス防止に努めることの大切さに気付きました。
「インシデントの分析なくして重大な事故の防止はない」「提出することで重大な事故を未然に防ぐためのもので、責めるためのものではない」「ヒヤリハットした出来事でも提出する繰り返しの意識付けが必要」など色々教えていただき勉強になりました。
グループワークでの話し合いは、自分だけでは気付かない点なども聞けて良かったです。

色々な事例に対して先生から見た意見が聞けて良かったです。実際にグループワークで意見交換などもできて良かったと思います。
医療事故に繋がる危険は常にあるし、反対に職員一人一人の意識の持ち方でリスクを低くすることができるということの大切さを感じることができました。日頃の業務に対する「慣れ」に対して、「再度初心に戻ること」「緊張感の持ち直しをすること」など反省すべき点は沢山あるのではないかと良い機会になりました。
インシデント・アクシデントで業務手順における問題点、マニュアルの不備がわかった。ヒヤリハットを沢山書けば安全性の向上に繋がるので大切なのだと思った。人間は間違いを犯すものであり、十分に自覚して確認作業を行いながら医療行為をすることが重要であることがわかった。
医療におけるリスクマネジメントは「患者のため」「医療従事者一人一人のため」「組織のため」ということを理解した上で仕事をしたいと思います。
危険予知を深く考え、グループで話し合いをすることは新鮮でした。介護を行っていく上で、常日頃から危険予知を考えて事故を予防できるようにしていきたいです。
最初は講義から始まり、医療事故の例を取って色々な説明をしていただきました。最後はグループにて実際に話し合いを行い、考えていくことの大切さを知りました。
先入観を除いて観察し、事故を防ぐことも大事だと思いました。「大丈夫」という思いは取り除き、多くの人と協力して予防していきたいと改めて感じました。
事例を挙げての講義で良かったです。
「人は間違いを犯すものである」という言葉が印象的でした。またグループワークを行い、他の人と話し合うことができて意見を聞くことができ、良かったです。
最後のグループワークではとても考えさせられ、リスクについてより一層勉強になりました。

平成26年10月19日【2日目】

講義 I 清潔保持と感染予防 仲井培雄
私は医療機関勤務なのでとても勉強になりました。帰ってスタッフ全員にもう一度伝えていきたいと思います。
とてもわかりやすかった。自分の病院の感染対策と全然違って驚いた。
マスク・手袋など使い方を実演して下さり、わかりやすかったです。手指洗浄のやり方もわかりやすかったです。
施設に帰り手洗い、うがい、手指消毒の仕方などミーティングで話し合い、再度周知しようと思います。
感染予防の大切さを改めて学ぶことができました。手洗いや消毒をしていても、やり方で全く意味のないものになってしまうということがわかったので、伝達および講習をしていこうと思います。
清潔保持と感染予防を知ること、利用者・自分・周りの人達を守ることの大切さを再認識できて良かったです。
感染症についてあまり知らなかったのも、良い勉強になりました。
要点をわかりやすく説明していただき、ありがとうございました。
普段、使用しているマスクなど付け方の違いで効果が落ちることが認識でき、勉強になりました。
仕事をしている中で利用者との接触があるため、十分に感染予防を行い、自分自身を保護するべきだと考えさせられました。十分仕事をしている中で清潔保持を行い、「他者に移さない」「自分自身も感染しない」ようにしなければいけないと思いました。
外科医の先生のお話が聞けて良かったです。
職場で今日教えていただいたことを皆に知ってもらいたいため、勉強会を開きたいと思いました。普段消毒や手洗いをしているも、基本を徹底的に実施していきたいと思います。
聞いていてわかりやすく、とても理解できました。手洗い・マスク装着も深く考えずにしていたことに気付きました。自分の身を守ることも大切であり、また患者や利用者への感染に繋がらないようにすることが大切である。しっかり心掛けてやっていかなければいけないと思いました。
手洗い方法・マスクの着脱・リネンの取り扱い・次亜塩素酸の使用など方法は知っていましたが、再度勉強になり施設内勉強会の資料にさせていただきたいと思いました。
実際に現場に必要な予防策を講義していただき、わかりやすくて良かったです。
マスクや手洗いなどは効果が最大限発揮できるよう適切な方法を学び、実践する必要がある。ナアナアになりがちですが、気を付けていきたいと思いました。
これからの時期は特に色々感染が多くなっていくので気を付けて予防していこうと思いました。自分自身が感染源になり、広めてしまわないように手洗い消毒をしっかり行っていきます。
しっかりとした感染予防を行い、自分が感染しないことはもちろん、他者を感染させないようにしたいと思う。また他の職員にもきちんとした感染予防を伝達していきたいと思う。まずは手洗い・うがいをきちんとした知識で行って、これから感染症が流行する時期なので、感染予防をしていきたい。また日々の業務の中でマスク着用やエプロン着用があるので正しいやり方で行うようにしようと思いました。意外ときちんとしているようで、できていないことも多く、知識不足な所もあったので、勉強していかなければいけないと思いました。
医療の業界において「清潔保持」や「清潔・不潔の区別」というのは必ず覚えておく必要があります。感染を防ぐためにおいても、方法・手順は間違わずに覚えてしまうと大変なことになりかねません。何か一つ作業をした後はうがい・手洗いを徹底するなどの自覚を持って行動することが大切だと思いました。

手洗い・うがいの正しい方法、アルコール消毒の方法など、今日から実践したいと思いました。
感染経路は日常生活の中にあるもので、ちゃんと消毒することが大事だと思いました。
帰って実践できるものはすぐ実践していきたいと思います。
スタンダード・プリコーションなどを詳しく知りました。非常に具体的でわかりやすかったです。しっかり現場で取り組みたいと思います。
感染についてはエボラなど最近の話題も聞いて良かったです。
衛生管理について知っていて実施していることもあれば、知っているが実践していなかったこともあることに気がきました。また知らなかったこともあり、新たに知ることができて良かったです。
清潔・感染予防として手洗い・うがいが大切である。正しい手洗い・うがい法を身に付け実践していくことが必要と思う。
これから手洗い・マスク・うがいの徹底をしていきたいと思います。
徹底した手洗い・手指消毒の方法を知ることができました。またイソジンや液体石鹸の中で菌が繁殖するということも知らなかったもので、施設にて実施していきたいと思いました。
予防に関して細かい所まで丁寧に説明をしていただき良かったです。
標準的な予防策についてわかりやすく教えていただき、勉強になりました。
流水と石鹸で必ず洗うことは日常生活でも必要なことなので、興味深かったです。マスクの付け方などもよくわかりました。
丁寧にわかりやすかったです。手洗いの基本や感染予防など振り返ることができて良かった。
清潔保持と感染予防について詳しく説明していただいた。自分の施設において見直したいと思う。
1つ1つ丁寧に色々な症例やわかりやすい説明をしていただき良かったです。ポイントを強調していただいたので学びやすかったです。
清潔・不潔について勉強になりましたが、実際にはできていないなどと思い、不安になります。
個々が遵守すべき予防策や、事業所の管理者や職員が遵守し教育すること、必要な物品を揃えておくことが大事だと思った。自身の健康管理で感染源となる細菌やウイルスを受けるリスクマネジメントが高いことがわかり、しっかりと正しい手洗い方法で洗うことがとても重要だと知った。
手洗いは流水から石鹸で15秒以上洗うことが必要だと改めてわかりました。またエタノール消毒をする時は、乾いてから菌が死ぬので乾かさないといけないということもわかりました。
標準予防策の正しい方法を再度学び直すことができ、大変勉強となった。
これからの季節はノロやインフルエンザが流行していくので、手洗い・うがいを改めて見直すことができました。
手洗い・手指消毒の手順と仕方を再確認し、清潔保持に努めようと思いました。
清潔と不潔について写真を使って教えていただき、とてもわかりやすかったです。利用者や自分自身を細菌やウイルスから守るには徹底して清潔保持と感染予防をしていかなければいけないと思いました。
清潔と予防の意識レベルを高める大事さもよくわかりました。普段を思い返すとできていないこともあり、改心させられました。話もわかりやすく、時間がすぐに経ってしまいました。
清潔保持や感染についてなど、ある程度理解しているつもりでしたが、間違っって解釈している部分もあり、改めて大変勉強になりました。
手洗い・うがいの正しい方法を習得することができました。職員の感染予防のため、手袋やエプロン・マスクの装着の必要性を改めて認識することができました。
清潔保持と感染予防は自分の身を守るためにも、感染を拡大させないためにも、とても大切なので大変勉強になりました。

講義Ⅲ 健康状態の把握 池端幸彦
肺と心臓の仕組みがよくわかった。高齢者の特徴について理解できました。
老化について理解できた。普段から高齢の方と関わる機会が多いので、高齢者の身体的特徴・心理的特徴を理解し、より良いケアができるように心掛けたと思いました。
デイサービスでも不眠を訴えられる方がとても多くて、勉強になりました。老化を受け入れることはなかなかできないことかもしれませんが、今回学んだことは伝えていきたいです。
高齢者のバイタルサインを見逃さないように状態を知っておく意味を理解できたと思います。
健康・不健康に関わらず、病気と共存していきっていくことを学びました。
自分自身の今後の人生をどう生きていくのかを講義により学びました。また利用者にとってもどう生きていくのかを介護をしていく中で考えていくべきだと思いました。
高齢者の状態を見ることの大切さがわかった。
雑学を交えての講義で、医療の知識がなくてもわかりやすいよう身体の仕組みを勉強できました。問題なども出てきて面白かったです。
老化の特徴など普段あまり意識しないことを学べて良かったです。
日々の状態観察から異常の早期発見に繋がられるよう、小さな変化でもスタッフ同士で情報共有し、様子を観察していけるよう取り組みたいです。
患者と関わる際は色々観察し、変化にすぐ気付けるようにしたいと思いました。
「身体が健康だけでは健康とは言わず、心が健康でなければいけない」という言葉が印象的でした。高齢者は自分で体調不

良の訴えができない人もいますので、身体のサインを見逃さずに健康状態を把握していく必要があると思います。私達は常に高齢者の方と接しているので「いつもと何か違うな」という気付きができるよう、観察していかなければいけないと思います。
人は必ず月日の流れると共に、年齢を重ねていきます。それに伴い食欲がない時があったり、睡眠が取れなくなったりと障害が少なからず出てきます。患者をよく観察する上で、異変などが発見されることもあります。声掛けをその都度行ったり、体の調子をうかがったりしながら仕事に専念することが早期発見に繋がるのだと思いました。
利用者の健康状態を常に把握することが必要だと改めて思いました。
老化と身体の仕組みについて理解できた。
高齢者の基本的な健康管理について、とても勉強になりました。
ユーモアを交えて講義して下さり、聞きやすかったです。
在宅で必要な医療的ケアについて現状がわかった。応急処置など他領域も含めて学びたいと思った。
教科書の内容だけでなく、実体験を踏まえた話が魅力的でした。普段から観察の重要性を感じました。
高齢者の特徴を再度学べた。その人にとって何が「健康」なのかを考えて業務に活かしたい。
施設に帰ったら、もう少しお年寄りの方の身体のことを少しの変化でも見逃さずに接していけたらと思いました。
利用者の心身の健康状態を維持・向上させるためには、介護者の心のこもった介護が必要だと改めて気づかされました。
先生の体験談など参考になるお話も聞いて大変良かったと思います。
遅延の差はあるが、人は必ず老化すること、薬物は必ず副作用があり、成人での状態とは異なることなど勉強になった。
先生のご家族のことや写真などもスライドで紹介されており、楽しい部分があって良かったです。
医学的分野は少し難しかったが、わかりやすく説明していただき良かったです。
興味深い内容で、すぐに現場で役立つことばかりで勉強になりました。時間的にももう少し余裕があれば、もっと詳しく知ることができそうです。
患者を日頃から観察し、ちょっとした気付きを持つことを意識しようと思った。声掛けをして体調を伺うことで、その日の体調がわかり、他職種との情報共有を行ってより良いケアを行っていけそうだと思います。
自分が健康か健康でないかは患者自身の気持ちの持ち方も関係があるということがわかった。
健康状態の把握において心臓の構造や、循環器系について色々学べたので良かった。
老化にともない体内の水分量も減り、高齢者はかなり乾燥しているの、舌や皮膚をよく観察し水分補給を促していこうと思いました。
内容が専門的な部分が多かったが、面白かったです。
精神と身体がとても深い関係があることを教えていただきました。また感染症の予防なども詳しく教えていただき勉強になりました。
高齢者の老化現象などがよくわかりました。五感を使って健康状態の把握に努めたいと思います。
高齢者の様々な特徴などを学び、日頃からよく関わっている私達の気付きが大切であることを理解しました。
どんなに小さなサインも見逃さないこと、気付きの大切さを職場でも活かしていきたいです。
利用者の状態を把握し、いつもと違った行動や表情に早く気付き、早期発見・早期対応に努めていきたいと思います。
循環器について講義を受けて、循環器系の構成と心臓の位置が理解でき、人間の体はすごく神秘的だと思います。

講義Ⅳ 高齢者の身体特性と介護職員のための救急処置の実際 池端幸彦
救急処置の部分が細かくわかったので、今後自分がそういう場面に出会ったら、今回のことを活かしていきたいと思います。
感染症の基礎知識が深く理解できました。
在宅での医療管理について、在宅での医療が増えてきているので、どのようなことをしているのか把握しないといけないと思いました。感染症の基礎知識については、感染源を見逃さないように職員が気を付けてケアをしていきたいと思いました。
救急処置が現場またはいざという時にできるようにしておく必要だと感じました。
医療・介護の連携も大切だが、統合することも大切だとわかりました。
高齢者は加齢にともない知能や人格など変化するため、十分高齢者の状態を把握して、介護していくべきだと思われました。また対応する時も十分把握して声掛けなどをしないといけないと思いました。
救急処置・応急手当など実際に体験したくはないですが、パニックにならず落ち着いて対応できたら良いと思います。知識を増やすことができて良かったです。
これからは介護士であっても医療について理解しようとする姿勢が必要だと思います。
介護の現場でも急変時の対応など医療的な知識が必要な部分が多くあります。高齢者にとっても自分の体の状態は心配な部分が多いと思いますので、適切な知識を身に付け、困っている時に安心できるような助言ができるようにしたいです。
高齢者に対して意識を強くし、普段からの生活に対して異変がないか目を配る必要があると感じた。
何かおかしいと思ったら、自分一人で判断せず他の職員や看護師に連絡し、対応していくことが大切だと思った。
急変時は慌ててしまいそうだが、自己判断で浮かないよう落ち着いて対応できるようにしたい。まず高齢者の身体特性を知り、何かいつもと違うのではないかと気付きができるよう、普段から顔を見てコミュニケーションを取るように心掛けたい。バイタルサインを見逃さず、急変時に何ができるのか、何をすべきなのかを考えて動けるようにしたいと思う。
「高齢者の感染対策」という講義において「どうすれば感染してしまうのか」や「どうしたら感染を防ぐことができるのか」などを考えていかなければいけないと思いました。もし、医療現場で人が目の前で倒れたら、焦らずに周囲に人がいないかなどを確認し、

人を集めることこそが最優先だと思います。自分一人で無理をせずに行うことが正しい方法だと思いました。
急変時の対応は何度も勉強しているが、実際にやらないとわからなかったり、いざと言う時にできなかったりかもしれないので、もっと学ばなければいけないと思った。
介護と医療の関係性やこれからのことについて勉強になりました。
身体特性を知ることができました。救急処置を重ねてしっかり勉強したいと思います。
現場で役立つ知識が身に付いたと思います。
基礎知識を学び、自分が行えることを考えながら、その場においてできることを実践していきたい。
心肺蘇生をいつでも行えるよう、もっと勉強していきたいと思います。
止血方法や傷の処置方法など、とっさの場合にどうすれば良いか学ぶことができました。
知らなかったこともあり、今後の活動での参考になることが多々あり、大変良い講義でした。
医療と介護の連携の大切さがよくわかる講義でした。
「動くことと食べることは大事である」「医療なき介護はない、また介護なき医療もない」というお話が印象的でした。毎日のちょっとした恵みにより生まれる幸福感を大切にすること、「日日は好日」という考え方を学びました。
身体のことを再確認することができた。知らないことも知ることができた。
救急処置の必要性について詳しく教えていただいた。
救急の際、まず落ち着いて誰かを呼ぶことがとても大事だと思った。人が多いと一人の時より安心できるし、素早い対応ができ、生命を救える可能性が高いと思うので、焦らず判断・行動をしていこうと思った。
機械などを頼りにすることも大切だが、介護士にできるのは全身状態を観察し、いつもと何か違うことに気付くことだということがわかった。
救急処置の正しいやり方を再度学ぶことができ、良い勉強となりました。
止血の方法で高挙法が簡単に実践できそうなので、現場でも役立てようと思いました。
在宅での医療管理がこれから必要になるかもしれないことや、救急救命でとても大事なポイントをととてもわかりやすく理解できました。
医療と介護の統合ということに共感しました。区別するのではなく、お互いの分野の知識を持ち寄り、患者に携わるということであるということが大変勉強になりました。
まだ救急処置に立ち会ったことはありませんが、もし、救急が必要な場合には今日の講義を参考にし、少しでも役に立ちたいと考えます。
医学的なことをわかりやすく説明され、私事を交えてのお話もあり良かったです。
介護福祉士として急変時にまず行うことは、生命維持や悪化の防止などであること。医師や看護師への報告・連絡・相談を行うことが大事であること。医療と介護は融合していかなければならないことなど勉強になった。
実際に右手を上げて左手と色の違いを比べてみる高挙法という止血法が参考になりました。

講義 V 慢性期医療における認知症介護 松谷之義
私の病院にも認知症の患者がいますが、これからももう一度関わり方をしっかりと考えて対応していきたいと思います。
認知症の細かい違いをいまいち理解していなかったのが、役立ちました。
認知症の方への観察力の大事さを学びました。早い受診で治療を行うと進行を遅らせることができること、中核症状と周辺症状があり、ケアする時の言葉かけを注意したいと思います。
認知症への関わりは職場でもずっと課題となっています。今回学んだことを活かして対応していけたらと思います。
認知症に種類があることを知り、介護職が一番気付くことができ、対応していかなければならないという大切さを知りました。
認知症に4種類も違いがあることを知りませんでした。
自分自身認知症の患者を介護しているが、一人一人対応が全く違うと思うので、認知症の方へのアプローチも複数あり、正解はないと思いました。また認知症患者同士で会話しているのを見るが、「何を話しているんだろう」と思うぐらい認知症というのは奥深い疾患だと感じました。
認知症のことを改めて理解することができました。
認知症は難しいと思いました。現場での対応の仕方はよく理解できた。
老健で働いているので改めて利用者一人一人をじっくり見ようと思います。少しの変化を発見し、対応できたらと感じました。
認知症に対して改めて勉強になりました。現場でも「認知症とうつ病、物忘れの違いは？」などと聞かれた時に即答できないことがあったため、今回を機に改めてちゃんと覚え、介護職員に実施・指導できるようにします。
認知症の種類などは知っていましたが、検査や診断や治療などは知らなかったのが、今回の講義で勉強になりました。また対応においてももう一度振り返りができました。
認知症について理解することが利用者のQOLの向上に繋がると思うので、しっかりと勉強したいと思います。
初期の認知症には投薬の効果がある。介護の現場では薬に対して抵抗を感じることもありますが、現場での本人の状態を医師と相談し、認知症に対しての薬の処方も含めてケアの方向を考えないといけないと思いました。
認知症は早期発見が大事であり、早ければ進行の速度を遅くでき、認知症の型によっては治療も可能と言うことがわかった。
様子をよく観察し、早期に異変に気付けるようにしていくこと。認知症がどのような症状が出るのか覚えておいて、どう対応していくのか考えて接していこうと思いました。

認知症の利用者は沢山いらっしゃる、利用者の症状は様々です。認知症について勉強し、これからきちんとした対応ができるようにしたいです。認知症は治せると知り、早期発見・早期治療が大切だとわかったので、日々の生活をよく観察し、報告できるようにしたいと思う。また認知症の高齢者に対する接し方を学び、介護できるようにしたいと思います。
認知症の方が進行している患者が急に理解不能なことを言うてくることはよくありますが、決して拒否や否定をしてはいけません。優しく対応してあげると共に本人の気持ちになって考えてあげることが基本だと思います。人それぞれタイプが違うので、人に合わせて対応を変え、利用者を優先して自分も行動していくことが最重要項目の一つだと考えます。
認知症について詳しく学べたと思う。認知症の薬も色々あることを知ったので、職場でも気にしてみようと思った。
認知症の種類によって対応を変えるのは難しい時もありますが、理解して対応にあたりたいと思います。
認知症の基本を改めて勉強し、認知症の方に対する対応を施設に戻ったらスタッフに伝えたいと思いました。
認知症の種類・症状・治療などの対応など様々な状態がとても難しかったです。認知症はとても奥が深いと思いました。
認知症ケア専門士と同じ内容であることが多かったため、再度復習することができました。またヘルパー2級の講師をした際にも認知症を担当した時に同じような話をしたなど思いました。
老健で働いていて認知症の方の接し方や症状をよく観察し、業務に活かしたい。
認知症の方が施設にも沢山いらっしゃるの、もっとよく話を聞き、寄り添って触れ合っていきたいと思いました。
認知症の種類・症状は様々であり、また認知症患者への対応の仕方についてももう一度考え直す良い機会となりました。
認知症についての正しい対応や心構えを教えてもらいました。
認知症は興味深い題材で大変ためになりました。参考にさせていただきます。
介護の分野で認知症に対しての最低知識と医学分野での認知症に対しての知識が少しでもわかった気がしました。
自分の現在の職場でも役に立つことでした。とても興味があり、今の現場での対応を考えさせられる機会になりました。認知症は難しい病気だと思います。人権やプライベートなど、その人の人間性を大切にしながら対応していくことの大変さを感じました。今の現場で役立てたいと思います。ゆっくりと説明していただき、とてもわかりやすかったです。
認知症の方で物盗られを訴えている際に、否定せずに一緒に探すなどの対応をしていかないと解決しないということは、とても患者に対して良い対応だと思いました。まず理解し、自分自身も知識を付けていこうと思いました。
認知症の初期ならアリエソで症状の進行が遅くなるので、初期発見・初期治療が大切だと思った。
認知症に対してより理解が深まり、色々な角度や視点から利用者を見ることができるようになった気がします。
認知症の種類や特徴や対応の仕方などわかりやすく説明していただきました。
認知症の患者も多く、難しい対応の場合もありますが、今日の講義で学んだ介護の原則と接し方を心掛けて接していきたいです。
認知症の介護の仕方や接し方を振り返ることができ、勉強になりました。
認知症は、原因となる疾病を治療し、薬物療法や初期段階での投薬で症状の改善・緩和・進行を遅らせることが可能である。自尊心を傷つけず、否定してはいけないということがわかった。
認知症は早期発見と早期治療が大切で、投薬により予防や進行を遅らせることができるので、変化に気付くことが大切だと思いました。また言うてはいけない言葉もあるので注意して接する必要があると思いました。

平成26年10月20日【3日目】

講義 I 喀痰吸引・経管栄養にともなう急変・事故発生時の対応と事前対策 榊原麻希
急変・事故発生時に自分がどのような行動を取るべきだろうかということを改めて学ぶことができました。慌てずに行動できるようにしたいと思います。
自分の職場は療養病床なので吸引・経管栄養の患者はとても多く、身近な話題でした。今まで何となく対応していたので、細かい異変の対応について聞いて良かった。
喀痰吸引や経管栄養時に起きたトラブルの対応について詳しくわかりました。
吸引の必要性や吸引時のトラブルが起こった時の対応を学びました。何か問題が起きた時は、迅速に医療者に伝えたいと思います。緊急時の連絡先も改めて確認したいと思います。夜間帯は一人なのでベッド付近に連絡先を貼っていくという取り組みはぜひ真似したいと思いました。
喀痰吸引・経管栄養の注意点と観察点がよくわかりました。
喀痰吸引や経管栄養の事故に対する事前対策の大切さが知れて良かったです。
業務中に胃ろうの方の胃ろう部分の皮膚がただれているのを見かけていたが、何故皮膚トラブルになるのか理解でき、今後の業務で改善方法を考えてみようと思いました。
吸引を行う際には十分注意し、介助しないと利用者に対して苦痛を与えてしまうと思いました。そのため、吸引を行う時は十分に気を付けて行うべきだと思いました。また器具の状態も把握しておかないといけないということもわかりました。
吸引や経管栄養は何度も見てきましたが、こんなにリスクがあるとは知りませんでした。自身が対応する時は安全に確認を怠らず確実に実行したいです。
喀痰吸引における注意点・対応について理解を深めることができました。緊急時の対応も改めて確認することができました。安全・安楽な生活ができるよう利用者を助けていきたいです。
どういう時に自分が対応するか、また喀痰吸引・経管栄養時のリスクなどがとてもわかりやすかったです。今後その場に立った時、慌てず焦らず連携をしっかりと取りたいと思いました。

喀痰吸引・経管栄養時のトラブルだけでなく、何事もスタッフや他職種同士で報告・連絡・相談を行い、より良い介護サービスを提供できるようにしたいと思います。
事前の準備に気を配り、施行中の利用者の状態観察や機器の具合の観察も怠ることのないよう注意する必要があると思いました。小さな変化や異常を感じた時は必ず行為を一度中止し、医療従事者に相談することも大切だと思いました。
普段から身体の状態を知り、ささいなことで気付ける目が必要だと認識しました。
患者と関わる際はよく観察し、何かいつもと違う所がある場合はすぐ報告し、職員と意見を交わすことが大事だとわかった。患者が安心して安全に過ごせるよう他職種と連携し関わっていこうと思う。
経管栄養を注入されている方に普段接していて、胃ろう部がただれていたり、ご自身で引っ張って管が抜けてしまいそうになっている方がいます。その時は看護師に報告していますが、自分が行う場合はもちろん患者の状態観察や急変・事故発生時に自分がどのように行動できるかを考え、慌てず報告や相談できるように事前に医師や看護師との関係を築いておかなければいけないと思いました。
この講義を受け、新しく身に付いた知識が多々ありました。鼻腔内・口腔内・気管内を吸引するにあたってのリスクマネジメントもきちんと理解した上で施行することが大切だと感じました。顔色が悪くなったり、何かを訴えようとしている様子が見られる時などに常にチェックすることが大切だと思います。看護師や医師との連携も絶対に忘れてはいけないものだと思うので、しっかりと自覚を持ち、業務に取り組みたいと思います。
経管栄養のトラブルはよく起こるので、目配り気配りに気を付けて他職種との連携を大事にしたいと思う。
喀痰吸引と経管栄養にともなうメリットやデメリットおよび危険性等を知ることができました。
資料に載っていないことも丁寧に説明していただいたので、わかりやすかったです。
喀痰吸引・経管栄養の急変や事故発生時の対応と対策を詳しく知ることができました。生命と身体を預かる大変な仕事だと思います。
急変時の対応や事前の対策など詳しく教えていただいたのが良かったです。
手順は後で見直そうと思いますが、重要なことはわずかな変化を見逃さない観察力を付け、早期に医師と看護師へ報告していくことということを理解しました。
吸引時のリスクと対応について知ることができた。改めてリスクのある医行為だと認識しました。
吸引に対する知識・技術を学び、ささいな異常などに気付けるようにしたい。
自施設には経管栄養の方も胃ろうの方もいっしょやらないので、よくわからないこともあります。これから先はどうなるか分かりませんが、よく勉強しておこうと思いました。
喀痰吸引で対象者の命に係わる重大な事故が起こり得ることが十分に理解できました。実際に現場で吸引を行う際には、本日学んだことを常に意識して臨みたいと思います。
トラブルや事故発生時の対応・事例などがとても参考になりました。
吸引を行うリスク、その後の対応を学び、連携の大切さを教わりました。
報告・連絡・相談は大事であり、同じ目的を持つ者が互いに連絡を取り協力し合って物事を行う連携が必要であることがわかった。緊急連絡網も用意しようと思った。
急変時や事故発生時の対応方法について詳しく教えていただいた。常に危機管理を考え対応しなくてはならないと思った。
ゆっくりと解説と説明をしていただき、またドラえもんなどの例などを挙げていただけてわかりやすかったです。
今回の講義においてとても重要で大切なポイントだったと思います。とてもわかりやすく教えていただき、勉強になりました。無駄のないゆっくりとした講義でとても良かったと思います。
喀痰吸引・経管栄養をする中で、しっかりと知識を身に付けて安全に行っていけるようにしたい。またチームで連携して情報を共有することで事故を未然に防ぐこともできるので、協力することはとても大切だと思った。
吸引時にトラブルが起きた時の対応などわかりやすく教えていただいた。またささいなことを見逃さない誠実な態度とチームの力でリスクは最小限に抑えて対応することが大切だと思った。
喀痰吸引や経管栄養時の急変対応や事故発生時についての対応について詳しく知れたので大変勉強になりました。
吸引には様々なトラブルや注意が必要だとよくわかりました。わかりやすかったです。
吸引を行うことによる注意すべきことや、経管栄養による重大事故について教えていただきました。
確かな知識と技術を身に付けておかないと、事故発生の原因になりかねないと思いました。チーム医療、介護で業務に携わっていきたいと思います。
吸引や経管栄養を行うことにおけるリスク、急変時の対応についてなど大変わかりやすかった。
今までは看護師がやっているのを見ているだけでしたが、今日の講義の内容を踏まえて患者の様子や急変などを見逃さないようにしていきたいと思います。
普段は施設で看護師が行っている業務を行うにあたり、喀痰吸引や経管栄養に生じる危険やトラブルについて詳しく教わるのができたので、実際に行う時に習得したことを実践できるようにしっかりと勉強したいです。

講義Ⅱ 慢性期医療における脳血管疾患管理 越智豊
各病気のメカニズムとそれにもなった症状などが勉強になりました。
難しい内容でもわかりやすかった。患者の症状の背景にある病気を理解してケアにあたりたいと思う。
脳血管疾患について今まで漠然としか知り得なかったが、詳しく理解できました。

難しい講義でしたが、わかりやすく解説していただき脳血管疾患の違いを学びました。施設内でのケアの仕方を改め、バイタルサインの異常値の早期発見、精神面のケア、寄り添ったケアを心がけたいと思います。
とてもわかりやすく興味を惹かれる内容でした。周りでも一番多い疾患なので今後の対応にも十分注意していきたいです。
脳血管疾患の利用者の対応の仕方が大事だと知りました。
脳血管疾患が起こる過程などを理解するのは難しかったですが、理解し援助する技術を身に付ける大切さを学びました。
色々な脳血管の障害がとても勉強になりました。利用者自身の既往歴を見た際に「何だろう」という疑問の障害がありましたが、色々な人体の勉強ができて良かったと思います。
脳血管・脳梗塞の発見を早くできれば障害も軽く済むのでしょうか。
追加のスライド分がプリントにないにも関わらず、ノートを取る時間がなかったのが少し残念でした。講義自体はわかりやすかったです。
脳血管疾患がどういうものか、またどうなっているのか、後遺症などがよくわかりました。そのことで嚙下などの怖さも知ることができました。
自分自身は予防できるよう健康管理を行い、脳血管疾患の利用者には寄り添う介護を心掛けたいです。
利用者のQOL向上のため、早期のリハビリの大切さを理解できました。
脳出血の影響で認知症を発症することがあり、本人の精神的な負担を考えるとその後のケアはより慎重に行わなければならないと思います。また後遺症が残っても、本人の残存能力を把握し、その後の生活で活かせるようなケアを実践していきたいです。
病気1つでも様々な症状があり、それを知るということが認識できました。
どうしても患者が自分でできるところも、介助した方が早いとか患者自身の希望などで介助してしまいがちだが、自身でできることは見守り、何かあればすぐ手を出せるようにする。
脳出血・脳梗塞後遺症の方が、たまにいらっしゃいます。突然体の自由が奪われたことによって色々なものが低下しています。その方にどう接するべきか、どういったケアが必要なのかを把握し、接していこうと思いました。また再発する可能性もあるので、毎日のケアと観察は大切であり、患者がどういった薬を服用されているのか、どういった点に注意しなければいけないのかも確認しなければいけないと思いました。その方のADL維持ができるよう、それ以上低下しないためにも私達のケアは大切だと思います。
色々な病気がありますが、この講義を通して病名を見た時に「なるほど」と理解しておく必要があると思いました。患者1人1人の個人能力を保っていかなければいけないので、長い時間をかけてでもできることは見守り・チェックをしていく必要があります。ADLを向上していただく面においても「この人はここまでできる」とよく理解しておく必要があるので、常に様子を伺ったり声を掛けたりして、状態を確認することも非常に大切だと思います。
脳疾患1つで人間の行動が違ってくるのだと思った。
脳血管疾患についてリハビリや疾患の種類など症状が理解できた。
説明がわかりやすく、最後の吸引部位や口腔内・気管内の説明も丁寧にして下さり理解できて良かったです。
医療的な分野だったので、少し難しかった。
脳血管疾患を沢山知ることができました。症状なども沢山あり、覚えるのがとても難しく思いました。高次脳機能障害をもっと勉強してみたいと思います。
脳疾患について学べた。現場では異常や異変に気付けるように心掛けたい。また心理的ケアについても注意していきたい。
脳血管障害の種類や「その症状がどうなるのか」「どう治すのか」「どういった対応が必要なのか」「どんな支援が必要なのか」を学びました。
特徴を理解することによって利用者に対してより良いケアが行えると思う。
自施設では認知症の方や寝たきりの方がほとんどで、これから先もっと色々な方が入所されて来ると思います。そのため、もっと色々勉強して対応ができるようにしていきたいと思いました。
脳血管疾患の種類や、麻痺の出現の仕方など詳しく教えていただき、理解することができました。また身体的だけでなく、精神面での寄り添ったケアも大切だと感じました。
基本として「その人を支える」「人生に敬意を払う」「個性や感情に配慮する」ということが大切だとわかった。プロとしての知識・観察力・スキルを持つことも大事だと思った。
脳血管疾患についてはわかっていることもあったが、記憶が曖昧になっている部分もあったので、勉強になりました。
脳血管疾患について再認識することができた。高齢者の症状の特性がよく理解できた。
患者の残存した機能を活かしていくことや、その方に寄り添うことも大切である。またそういったケアをしっかり行い、QOLの向上に繋げていきたいと思いました。
身体の介護と共に精神的なケアが重要で、寄り添う気持ちが大切ということがわかった。
脳血管疾患について色々なことを知ることができて良い勉強になりました。
高次脳機能障害について知識を得ることができて良かったです。
脳血管疾患についてよく理解できました。利用者を観察する際、状態について色々な角度から見ることができるといい、何事も全て繋がっているのだと思いました。

完治は難しくても、リハビリに頼ることなく介護職でもやれることはやっていき、ADL を向上させて少しでも元の生活に近付けるように寄り添った介護を行っていきたいと思います。
医療的な分野で難しかったが、要点をまとめて話していただいたので良かったです。
脳血管疾患には脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などがあり、脳血管の特徴として脳は人間にとって重要な機能であるため最終的に動脈が詰まってしまうと、他からのバイパスがなくなってしまうということが理解できました。

講義Ⅲ 慢性期医療におけるスキンケア 木下祐介
スキンケアは褥瘡予防にも役立つとわかったので、スキンケアもしっかりとやっていきたいと思います。
なかなか皮膚だけに焦点を当てた講義は聞いたことがなかったので面白かったです。
「皮膚の役割は外界と体内の境界である」という言葉が印象的だった。普段のケアで高齢者がよく乾燥してかゆみを訴えることがあるが、きちんと保湿して水分を保持すると良いということが学べた。表皮・皮膚の構造についてもわかりやすかった。
高齢になると皮膚状態も悪くなるので、スキンケアはとても大切だと思います。もと詳しく知りたかったです。
スキンケアで必要なことと対策を知ることができて、きちんと覚えて業務で活かせるようにしたいと思います。
今まで知ることのなかった皮膚のことを知ることができて良かったです。
講義を聞いて「自然のものが良い」「毎回入浴する方が良い」などの事柄が改めて人の思い込みというのは恐ろしい考えだと思いました。
仕事をしていく中でスキンケアの大事さを今回の講義内容で知ることができました。高齢者の皮膚は成人のものとは比べて違うため、接していく中で頭に入れておく必要があると思いました。
皮膚のケアの大切さ、洗い方などが勉強になりました。何故皮膚があるのか、皮膚があるために守られているということが理解できました。
高齢者のスキンケアについて、これから乾燥する季節になるので今回の資料を参考に行おうと思います。
日々の皮膚状態の観察が重要で、適切なケアができるように対応していきたいです。特に「し過ぎる」など過度なケアが多いような気がしたので気を付けたいと思いました。
自身の状態に合わせたスキンケアが大事なのだと認識できた。
これからの季節だと特に乾燥してくるので、入浴介助の後にはすぐクリームを塗るなどして皮膚の状態を保っていきたい。また入浴介助時などに皮膚をよく観察し、異変がないか確認し、異変がある場合はすぐ気付けるようにしたい。
高齢者の方の皮膚は乾燥しやすく、剥がれやすくなったりします。これからの時期は乾燥が多く見られるので皮膚を擦り過ぎないようにし、またしっかりと洗い流すように心掛けようと思う。長湯や熱いお湯は皮膚がカサカサになってしまうので、適度に保温して保湿に気を付けようと思います。自分自身も乾燥肌でこの時期はカサカサしているので、保湿に注意して入浴の仕方にも注意していきたいと思います。皮膚を守るスキンケアについて学べて勉強になりました。
「スキンケア」に関係する講義において、自分自身のスキンケアはもちろんのことですが、利用者のスキンケアは欠かしてはいけません。そして1人1人の肌の状態は異なるので、その人に合ったスキンケアが必要だとわかりました。入浴にせよ排泄交換にせよその人に沿った正しい方法で行うこともより良いスキンケア・セルフケアに繋がります。しっかりと利用者の肌をチェックし、変わったところはないか注意して見ていくことがより良いスキンケアに繋がると思います。
皮膚を清潔にするためだけでなく、皮膚を乾燥から守るためにスキンケアをきちんと職場でも行おうと思った。
スキンケアについて詳しく説明していただきました。ケアを行う際は皮膚だけにとらわれていたのですが、爪などもスキンケアの一部であると考えようにしようと思いました。
高齢者のスキンケアには興味があります。講義もわかりやすかったです。
表皮・角質層の働きを詳しく知ることができました。スキンケアにしっかりと興味を持って取り組みたいと思いました。
皮膚の役割から噛み砕いて説明していただき、わかりやすい講義でした。基礎を学んだことから普段の介護にも自分で考えながら実践していきたいです。
皮膚の病気にも様々な種類があり、介護者がよく観察し気付くことが大切だと思いました。
これからの季節に対する保湿についてのケアをわかりやすく講義していただき、とても良かったです。
皮膚が乾燥する前に保湿すること、普段のスキンケアについて興味深かったです。
スキンケアについて知らなかったことを知ることができたので良かったです。個人的に尿素は肌に合わなかったのですが、角質を溶かすと聞いてびっくりしました。
スキンケアの講義を受けて日常の業務・ケアを見直してみたいと思いました。
介護職が一番目につく皮膚の異常について、正しくわかりやすく説明していただき、とても勉強になりました。自分でも今まで間違った知識を持っていた箇所もあったので、大変良かったと思います。
疥癬やヘルペスなどについて少し理解することができました。
当たり前のように入浴することでも、汚れによる病気を防ぎ、健康を維持するためにはとても大事なことだと改めて思った。
皮膚は体を守る・汗を流す・水分を吸収するなどの役割がある。またオムツ内では角質層の表面が中性になるので、バリアが働きにくいことがわかった。
スキンケアにおいて乾燥肌の防ぎ方や皮膚についての知識を学べて良かったです。
スキンケアについてさほど意識していませんでしたが、講義を聞いて目から鱗になりました。実践でも習った知識を活かしていきたいです。

スキンケアには大変興味がありますが、勘違いしていた部分もあり、勉強になりました。今後正しい知識を身に付け、ケアを行っていききたいと思います。
本日の講義はこれからのケアに取り入れていききたいと思います。ヘルペスは一生体の中に持っているというお話は知らなかったもので、良い勉強になりました。
スキンケアは「皮膚を清潔にする・乾燥から守る」「紫外線から皮膚を守る」ということを再度認識することができた。

講義Ⅳ 慢性期医療における褥瘡の予防と治療 木下祐介
褥瘡の知識はこれから各スタッフに伝えていき、患者が安心して過ごせるように取り組んでいききたいと思います。
自分のケアが褥瘡を作っていた可能性が沢山あったことに気付いた。今後はできる限り改善したい。
褥瘡が体交時にオムツの中で皮膚が動いてできるなんて想像もしていなかった。今後は気を付けて体勢を動かさそうと思う。
講義で使う言葉やケアする際のことを統一すること、褥瘡対策の必要性を考えるように心掛けようと思いました。座っている利用者にも気かけ、圧力が分散するように声掛けをすと学んだ。体位交換の必要性を学んだが、褥瘡の危険性もあり注意してケアしないといけないことを学びました。日常の観察をして早期発見に努めます。
担当医師によってやり方が全然違うと感じています。酷くなっていく利用者を見てると何とも言えない気持ちです。薬を安易に使うのも考え物だと思いました。
褥瘡をまず作らない環境が必要であり、作ってしまった場合は処理の仕方を再認識できました。
体位交換で褥瘡ができるのは知りませんでした。しっかり教えていただいたやり方でやっていきたいです。
スライドで見た写真で体位交換が作ったポケットを見て、利用者にとって良かれと思ってやっていることが悪化させてしまうこともあると知って、介護者はちゃんと理解しどうしたら防げるかよく考えてケアを行わなければいけないと思いました。
自分自身介護を行っている時に皮膚をよく見ますが、「褥瘡なのだろうか？」と思う場面が見受けられましたが、今回の講義を受けて褥瘡かそうでないかの調べ方も知ることができたので、施設に戻った際に確認してみたいと思いました。
ためになり面白かったです。職場で勉強会をして皆にも知って欲しいと思いました。褥瘡は早く治って欲しいですし、できないように業務にあたりたいと思います。
褥瘡の予防と治療について、確認の意味でも「なぜこのような処置をしているか」という疑問が解けました。この知識を現場でも活用し、一人でも多くの利用者の褥瘡を防いでいきたいです。
褥瘡の原因は知っていましたが、薬や消毒は不要であり、体位交換もやり方次第でズレが広がるということを知りました。
100歳を迎える利用者の車椅子座位について、座っている姿勢がつかなくて身体を動かしているのだということがわかり、むやみに姿勢を直すのではなく、その方の座位姿勢を見ながら関わっていかれたらと思いました。
オムツ交換の際の観察の際に褥瘡で早期発見に努めたいと思った。施設全体の褥瘡の様子を把握するようにしたい。
自立されている方でも軽度の褥瘡になることがありました。皮膚状態の観察や早めにその人に合った対応を検討し、実践することが大切だと思いました。
褥瘡は段階的であり、その予防や治療には多くの手段があることを認識しました。
今までは必要だからとってしていた体交がやり方によっては余計に褥瘡を悪化させていることにとっても驚きました。今後は2人以上で行い、余計なズレが起きないようにしていきます。個々に合ったケアのやり方を見つけて少しでも褥瘡ができないようにしていきたいと思います。
褥瘡に関する正しい知識を身に付けなければ私達自身が褥瘡を作るかもしれないと思いました。褥瘡を作らないように予防するのが一番なので、私達介護の日々のケアの際に全身を観察し、早期発見ができるようにしたいと思いました。また褥瘡になった場合はそれ以上酷くならないように治療していけるように皆で協力して、対策していきたいと思います。
「褥瘡の予防と治療」という講義を受けて、まず初めに自分自身が「褥瘡予防に全力で努めていたか？」と聞かれるとハイとは言えないと思います。体位交換はこまめに行っていましたが、排泄交換の度に褥瘡がないか確認をしていない時もありました。やはり褥瘡予防に1人1人が努めていくと、「傷が浅い」「そこまで傷にはならなかった」という良い結果が見えてくると思います。これからは今まで以上に褥瘡予防に気を配り、仕事に取り組みたいです。
褥瘡は何度見ても痛々しいです。体位交換はやり方によって褥瘡を予防したり、悪化させたりする場合がありますと学んだので気を付けたい。
褥瘡に対し、理解を深めることができました。ラップ療法は取り入れているが、タムシができたり、スキントラブルが発生することもありました。
自施設も褥瘡の方がいて、毎日オムツ交換やガーゼの取り換えが大変なので、施設に戻り学んだことを看護師と話したいと思います。
今まで自分が怪我をしたり負傷した時には、消毒したり薬を塗ったりしていましたが、自然の力で治すということも効果的なのだとわかりました。
褥瘡に関して分類や傷の治療について知らなかったことや新しいことなどが学べました。講義内容もわかりやすく大変良かったです。
体位交換の時にも褥瘡を作ることがあると知って注意して行うことが大切だと思いました。
ラップ療法は参考になりました。日常的にラップ療法は使っており、患者を詳しくアセスメントし、日頃から観察を行ってスキンケアを予防すること、褥瘡ができて諦めないことが大切だと感じました。
褥瘡の基本から予防・治療法まで勉強できたので、今後のケアに活かしていきたいです。
褥瘡の基礎を再度わかりやすく教えていただき、良かったです。また傷に対しての適切な処置では特に薬に頼らずに水で綺麗

に洗い流すと良いことや、ガーゼをしては駄目という新たな知識も得ることができました。
職場でとても役に立つ内容で良かったです。写真もわかりやすく、理解しやすいです。すぐに現場で対応してみようと思います。医療面は医師・看護師の指示をもらい褥瘡防止に努めようと思います。
褥瘡を作らないために、傷を作らないケアが大事であり、傷を作らないためにその人に合った体位交換を行うことも大切である。そのためにも今後しっかりと正しい処置の仕方でも対応していくことが大事だと思いました。
褥瘡は水道水でよく洗浄し、ガーゼや塗り薬などを使わずにラップなどを貼り保湿することが大切だということがわかった。また体位交換時によるズレで褥瘡ができることがあるとわかったので、今後気を付けなければいけないと思いました。
褥瘡について改めて学ぶことで基礎的なことをきちんと覚えることができた。
褥瘡の治療についてラップ療法を用いて治療した過程をととても詳しく教えていただきました。ラップ療法について自分でも調べてみようと思います。
浸出液の力はすごいと思いました。消毒という固定観念を除き、ケアしていきたいと思います。褥瘡の基礎も改めて勉強できて良かったと思います。
褥瘡に対する処置方法をとてもわかりやすく伝えていただけて助かりました。現場でも実践できるようにしていきたいです。
私の勤めている病院では週に一度しか皮膚科の先生が来られないので、こんなに詳しく褥瘡のお話などを聞くことがないので、とても興味深く聞くことができました。治すことよりも、作らないことが大事ですね。
私達が身近に接する褥瘡の話で今後オムツ交換時・体交時には特に気を付けていこうと思った。
まずは褥瘡ができないように予防することが大切ですが、褥瘡を形成してしまったら早期対応・早期治療に努め、「傷を乾かさない」「ガーゼを使わない」という治療を行い、早期治療できるようにしていきたいと思います。
褥瘡に対する考え方が変わり、とても勉強になりました。

講義Ⅴ 慢性期医療におけるケアプランと看護・介護計画 川添チエミ
普段ケアプランに全くと言っていいほど関わっていないので、話についていけなかった。
「介護の入口には医療がある」という言葉が印象的でした。介護士も医療について学び、利用者の観察の役に立てるよう支援したいと思います。施設のケアに合わせず、その人らしさを活かせるように努めたいと思います。
各施設によって全然やり方が違うことを知りました。ただ計画を立てるのではなく、個人のことを考えた計画でなければ意味がないことを改めて学ぶことができました。
その人のためのオンリーワンのケアプランを考えてみたいと思います。
自分の施設に戻り、もう一度どのようにケアプランが立てられているか確認し、利用者に援助していこうと思いました。
今後は介護保険制度が変更されるため、重度な利用者が増加してくると思われる。十分に制度を把握しておかないといけないと思いました。実際に現場の状況としては長期療養が多いため、在宅復帰を目指していかないといけないと思います。
ADL 評価表しか作成していないですが、職場のケアプランを確認してみたいと思います。
5 分のディスカッションはとても良い機会だと思いました。長く使うスライドはコピーを必ずしておくとう理解の仕方が変わって良いと思います。
自施設ではしていないこともあり、本当はした方が良いが、まだそこまでできていない現状について考えさせられた。
施設ではできていない介護計画などこれからはしっかりと行えるよう考えていきたいと思います。
ケアプラン作成に携わっているが、長期目標・短期目標の設定に関して知識が浅かったので、勉強し直したいと思った。
施設においても、在宅においても、各利用者の目標に合わせて介護を実践していくことが大切だと認識しました。
患者 1 人 1 人に合った介護を行うためにも、職員によって介護の内容や質がバラバラにならないよう、職員同士で話し合おうと思いました。
ケアプランについての話が難しかったです。また ICF (国際生活機能分類) の話は初めて聞きました。自分の施設がどのようにケアプランを作成しているのかきちんとわかっていないので、確認してみなければいけないと思いました。やはり介護として携わっているのだから、介護としての計画が立てられるように一貫した個別の介護が提供できるようにしていきたい。
「ケアプラン」に関わったことはありますが、最近あまり参加していないので難しかったです。利用者の夜間の状況・ADL の変化・食事に関してなど、介護士から見ると思っている点などの意見を出し合うという経験ができて良かったです。常に自分の担当者をよく見る必要があると思いました。「下肢の筋力が落ちたのか」や「食事の摂取量が減った」なども注意して観察する能力が必要になります。個々の能力を引き出すことが大前提であり、利用者が自分でできることはやっってもらう方が ADL の低下を抑制できると思います。日々担当だけでなく、施設内のすべての方を注意深く見ることがケアプランにおいて上手にアセスメントできることに繋がると思います。
ケアプランを書いたことがなかったので、難しかったです。
ケアプラン・介護計画・ICF などが、他施設と当院で行っていることの違いが多いことがわかりました。
あまり馴染みがない業務でしたので少し難しかったです。また、ICF の資料をいただけると良かったです。
自分の施設でのアセスメントとケアプラン作成の流れを確認したいと思います。
ケアプランについて普段作成しない立場なので、どういうプロセスになっているかわかって良かったです。
自分が「介護計画がない」「計画書を書いたことがない」ことに気がきました。今後どうするのか施設に戻って考えたいです。

ケアプラン作成はほとんどケアマネジャーの方が行い、何か問題があった場合のみ介護職員が参加していたため、もっと自分もケアプラン作成に参加できれば良いと思いました。
施設の繋がりやケアプラン・計画など知らないことも学べてとても良い講義でした。
『介護』の入口には『医療がある』という言葉に共感しました。医療にももっと関心を持ち、仕事をしていきたいと思ひます。利用者に対して個別に視点を置き、ケアをしていきたいです。
個別介護におけるケアプランの必要性が理解できた。
実際にデイサービスで介護計画書を作成していますが、本日習ったように利用者にとってオンリーワンのプランを立てられるように頑張っていきたいです。また色々な方とディスカッションもできて良かったです。
かなりレベルの高い内容で、勉強しないと理解するのは難しいと感じました。専門分野だけでなく、ケアマネのことも知らないといけないと思いました。
医療についてもっと興味を持ち、知識を付けたいと思いました。またディスカッションで他施設の介護計画の仕方などがわかり、勉強になりました。
ケアプランは施設に合わせるのではなく、利用者にとってのオンリーワンのケアプランを作ることが大切だと思った。
ケアプラン作成時にあるプロセスについて詳しく学ぶことができ、良い勉強となった。他施設との交流もできて良かった。
ケアプランや介護計画など今まで関わったことがなかったので、施設に帰ったら色々聞いてみたいです。
考える視点・気付きが大切であり、より利用者を観察して情報収集し、プラン立案に心掛けたいと思ひます。
ケアプランの重要性を正しく理解することができました。
講師の先生がおっしゃる通り、職場に帰ったらどういった流れになっているか考えてみたいです。グループワークでは他院の方の話も聞けて良かったです。
今後少しずつでも自分の病院でのケアプラン・介護計画がどのようになっているのか勉強していけたらと思ひます。
自分が働いている施設で立案している介護計画をもう一度見直し、「その人らしさ」を一番に考えて作りたいと思ひます。

平成26年10月24日【4日目】

講義 I 慢性期医療における排泄ケア 福本京子
排泄ケアは毎日関わる重要な部分であり、患者の心と深く関係している大切なケアなので、もう一度しっかりと考えて行ってきたいと思ひます。
講義の内容はその通りだと思うことばかりでしたが、自分の病院の患者数や介護度を考えると取り入れることは難しく、聞いていて心苦しかったです。
排泄ケアにおいて守らなければならないことや注意点が改めて確認できました。
排泄ケアは患者自身が持っている力を引き出すこと、排出をきちんと組み立てること、アセスメントをし、排泄パターンを見極めることが重要であると学んだ。私の施設には1階と3階にトイレがあり、フロアに1つしかないため、自分のペースで行くよりも誘導する形になっているため、快適な排泄ケアができていないか難しいと感じました。観察力を付けてきちんと組み立ててケアができるように努めたいと思ひます。
排泄ケアの大事さを学び、適切な行動ができるように取り組んでいきたいと感じました。
個々に合った排泄ケアを行うのは難しいと思ひますが、少しずつ行ってきたいです。
日々の忙しい業務に追われると、介護側の都合で介助しがちになってしまうが、特に排泄は患者にとって人に介助されるのは本当に嫌だと思ひます。しかし、自分でできない人は介助を受けざるを得ないので、介護者が相手の立場になり、少しでも不快な気持ちを減らす努力が必要だと思ひます。
本日の講義を受けてみて、排泄ケアの際に利用者の不潔行為を他人が見ることに疑問を感じており、現状で改善することは難しいと思ひますが、利用者の気持ちを考えれば理解できると感じました。
排泄のことについて考える良い機会となりました。
排泄は現場で1番関わることで、どうすれば良くなるかと常に考えていました。利用者には不快感を与えず、スタッフも負担が少なくするにはどうしたら良いでしょうか。私もオムツをはめて排尿をした経験はありますが、やはり安心することができなかったことを覚えています。
排泄ケアとしての理想は誰もが考えていることだと思ひます。その理想を現実にするのが大変で仕方なく現状維持を行っている施設がほとんどだと思ひます。明確な指示・方法などを示して欲しいと思ひました。オムツ外しは確かに不安・不穩の理由の一つではあると思ひますが、それだけが元凶ではないと思ひます。また、図や長文のスライドはコピーしていただくと良かったです。
講義の中で学ぶ「食べる・排泄・入浴」の中で最も回数が多いのが排泄であり、自施設でも定時はオムツ交換・トイレ誘導です。今回のお話を聞いて自分の施設では個別の排泄ケアができていない、リズムの組み立てができていない・夜はゆっくり睡眠できていないなどの問題点に気付いたので、これからは個別のリズムケアを大切に、自分自身に置き換えて何事も考えていこうと思ひました。
どの介護も同じですが、尊厳のあるかわりを念頭に置き、個々の排泄パターンをアセスメントしてより良いケアを目指したいと思ひました。
排泄交換される利用者の気持ちを考え、言葉や態度に気を付けてこれからの排泄交換に繋げていきたいと思ひます。また利用

者の行動パターンに合わせた排泄ケアを心がけたいと思います。
個別に合わせた排泄の介助は難しいですが、日々の排泄の状態を観察し、対応を検討していけたらと思いました。
排泄は生きていく中で欠かせないものであり、それには個人の尊厳が守られなければならないと認識しました。
つい決められた時間にオムツ交換をしていましたが、患者個人に合わせた排泄交換を職員同士で話し合い、決めていこうと思いました。
排泄ケアは生命を維持する上で最も欠かせないものであり、一番多く行うケアであると思いました。またデリケートなケアであり、その方の尊厳を守るケアであることを認識してケアを行っていかねばいけないと思いました。その方のペースを最優先にして接していかなければいけないと思います。私達の声かけ 1 つで安心して排泄してもらうこともできるし、身を委ねてもらえるので、声掛けはとても重要だと思います。全員が同じではないし、個別にその方に合ったリズムとパターンを見ながらケアを提供していけるようにしたいと思いました。
「排泄」は人間誰しも必要なことです。人それぞれ排泄のペースも違えば方法も異なってきます。そこで私たち介護職の力で「どうしたらこの人にとって一番良い方法で排泄できるのだろうか」ということを考えることが重要です。歩ける人にオムツを着用したり、歩けない人に歩けと言うのはルール違反です。ADL が低下傾向で転倒リスクが高い場合などは仕方ないですが、その人にできることを制限してしまうことはADLの低下に繋がります。能力を低下させないためにも職員一人一人がよく考えながら行動することが大切だと思いました。
排泄ケアなどこちらの都合で時間が決まっているが、個々の状態で交換する方が良いと思った。
排泄ケアの大切さがよくわかる内容でした。日々見直さなければいけない所も多く感じた。
講義を参考にして利用者の排泄ケアに役立てたいと思います。特に緩下剤の話は、施設の看護師にも聞いて欲しいです。
柔らかい話し方で聞きやすかったです。介護側と利用者側の両面に立っての講義でとても共感しました。しっかり入眠していただくためにオムツに対してもしっかり考えていきたいです。
生活の中で多くを占めるオムツの対応について学べて良かった。業務に捉われることで利用者の声が聞こえにくくなってしまいうらさも知ることができたため、今後活かしていこうと思いました。
理解はできるが、現状では難しい組織体制システムだと思う。一人が手を挙げても改善が難しいと感じた。
その人に合った排泄パターンを確認し、入所者に負担のない援助を行いたい。
排泄おけるケアをもう少し考え、今施設で行っているオムツ外しに頑張っ活かしたいと思いました。
今まで排泄ケアを行う際に蒸した紙タオルを使っていましたが、入居者の清潔や皮膚の健康のためにはお湯で流し、乾いたもので拭くことが適切なのだと知りました。個々に合った排泄リズムを掴み、安楽な排泄ケアを行っていききたいと思います。
排泄に関してアセスメントなどの内容をわかりやすく講義していただき、とても良い内容だと思いました。
排泄ケアを行う上での尊厳の大切さを学びました。
排泄は生命を維持する上で欠かせない行為であり、快適に排泄するにはプライバシーが確保され、自分のペースでできることが大切だと再認識した。また、これらによって利用者自身が生きる意欲を見出すことに繋がると思った。
今回の講義を受け、日頃の業務や利用者の排泄ケアについて見直してみたいと思った。
排泄ケアの基本知識を踏まえての講義だったので、聞きやすかったです。また今回トイレの手すりについて「前屈み用の手すり」の存在を知ることができて良かったです。
普通の職務の中で一番回数を多く行うからこそ、ちょっとした心配りが大切だということを学ぶことができました。
排泄介助についてもその人の排泄パターンの確認をし、自立支援もとても大事で定時交換だけでなく、よく観察してより良いケアをしていきたいと思いました。
オムツ交換は定時交換ではなく、利用者に応じた時にトイレ誘導やオムツ交換をするのが望ましいと思った。
利用者にあった排泄ケアができていないように思い、再度排泄リズムを見直してケアしたいと思いました。
生きる上で一番重要視される排泄ケアについて細かく学ぶことができました。
日頃何気なく行っている排泄ケアがいかに重要であるか、改めて考えさせられる講義でした。「最期に人生を全うする時期に生きていて良かったと思えるか」という言葉が深く心に残っています。
まだ当施設では定時おきのオムツ交換をやっています。なかなか排泄は難しく奥が深い課題だと思います。
一番身近に感じる排泄ケアの講習でした。患者の身になって排泄ケアを行うべきだと実感し、実行していかなければいけないと思いました。
排泄ケアは日常生活の中で最も関わる時間が多く、介護する面で一番大切なことなので、本人のペースを尊重し、尊重することを忘れないことが大切だと感じた。定時誘導ではなく個別に対応することを優先していきたいです。

講義Ⅱ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 1 田中圭一
大切な部分をとでもわかりやすく教えていただきました。呼吸がどのような仕組みになっていて、どのような症状が出るのか勉強できて良かったです。
呼吸の仕組みと呼吸の状態について詳しく知ることができました。
呼吸困難に対してどれだけ早く気づき、対応できるかが大切だと学びました。迅速な対応ができるように支援したいと思います。利用者の中で慢性心不全の方もいらっしゃいますので、日々の観察をきちんとしていきたいです。
呼吸についてよく学ぶことができました。観察力をしっかりと身に付けていきたいです。
呼吸状態を考えることでの適切な行動の仕方を学べて良かったと思います。

呼吸の仕組みと働きで「換気」「ガス交換」など始めはわからない所があったが、講義の最後には理解できました。
今回の講義内容を聞いて呼吸の大事さがわかりました。仕事をしていく中で呼吸が停止した利用者や吸引を行う際に患者に接触する機会があるため、十分考えておかないといけないと思いました。
換気とガス交換の違いが理解できた。
テキストを使うとおっしゃっていましたが、ページがわからず、スクリーンでやっている場所もわからず、内容がほとんど頭に入ってきませんでした。最後に大切な所を教えていただいたのは良かったです。
わかりやすく呼吸の仕組みと働きがわかりました。どういう仕組みで空気が運ばれるのかもわかり、勉強になりました。
日々の状態観察が重要で、呼吸状態の観察に気を付け、異常の早期発見に繋がられるように努めたいと思います。
呼吸困難は訴えができない場合もあるので、注意が必要であることがわかった。呼吸器系には様々な器官や病気が多々あると認識できました。
寝たきりの患者や認知症の患者が多く、自分で上手く呼吸困難を伝えられない方が多いので、よく様子を観察し、すぐに異変に気付けるようにしたいです。
生命維持には呼吸は重要であり、その仕組みと働きについて改めて知ることができました。難しいですが、私達はいつも利用者と接していて、いつもと違う呼吸の仕方などを常に観察しなければいけないと思います。私達の観察力により異常の早期発見に繋がると思うので、普段から呼吸の音や呼吸の仕方に注意して、接していこうと思います。
「呼吸」は何かをする以前に呼吸をしなければ人は生きていけません。患者がおかしな呼吸をしていたり、様子がおかしい場合は、瞬時に見極め、「どのような呼吸音」であるか「表情はどのような感じか」などを読み取る必要があります。たとえご本人が大丈夫だと言ったとしても、様子がおかしければ看護師や医師へのスピーディーな報告が必須となってきます。日常業務の中でそういった観察力をつけていき、小さな以上にもすぐ気付けるような人間になりたいです。
たんを吸引するのも呼吸状態を常に把握して口腔内を傷付けないようにしなければならぬと思った。
わかりやすくゆっくりと教えていただくことができ、また重要なポイントがどこかわかり、今後に生かすことができそうだった。注意点がわかることで、観察ポイントや看護師・医師などと「報告・連絡・相談」がしやすくなると思いました。
呼吸の仕組みは知らなかったことを学べて勉強になりました。呼吸状態についても普段の観察の重要性が理解できました。
スライドも講義内容もわかりやすく、呼吸の仕組みを知らなかったので勉強になりました。
自施設には訴えのできない利用者が多いので、毎日のケアを怠らないようにしたいと思いました。
各呼吸器の名称・役割をよく理解することができました。知らなかったこともあったので、よく覚えて実際に現場でも活かしていきたいと思います。
呼吸の仕組みや異常がある時の呼吸の音などわかりやすく教えていただきました。
呼吸は大切なことであり、呼吸の苦しさは患者に不安や恐怖心や大きなストレスを与え、身体にも影響してくる。患者の苦痛を受け止めた支援を行わなければいけないと感じた。また、呼吸器のトラブルは身体に与える影響が大きいので早急に医師と看護師に連絡する必要があると考える。
呼吸の仕組みについて詳しく教えていただいた。仕組みを十分に理解しないとたんの吸引は難しいと感じた。
専門的な用語も多くあり、細やかな臓器で扱いが難しそうだと思いました。「日常の状態をよく見ていてこそ、異常があるとわかる」という言葉に呼吸一つでも違いが分かるようにしておくことが大切だと思いました。吸引することの大切さに繋がるからこそ、しっかり勉強しておこうと思います。
日常的に行っている状態をしっかりと観察するということがとても大切であるので、しっかりと確認しなければいけないと思った。今日学んだことを忘れないようにしていこうと思いました。
呼吸の音にも様々なものがあり、また呼吸をどのようにしているかもよく観察することが大切だと思った。また、鼻腔内はとても狭く、粘膜も弱いので慎重にカテーテルを入れなければいけないと思った。
吸引における意味と呼吸の仕組みについて詳しく学べたので大変良かったです。
通常、人は何も考えずに呼吸を行っているが、高齢者や様々な疾患によって正常に呼吸ができなくなり、呼吸状態に問題をきたすため、利用者の異変を見逃さないように観察を行い、対応していきたい。

講義Ⅲ 慢性期医療における薬と検査 田中圭一
画像がわかりやすかったです。誤薬についての危険性を改めて学ばせていただきました。
薬については少々難しかったです。基本を知っておかなければと思いました。
検査の種類について学びました。私達にできることは日頃の利用者の観察であり、受診の時にどれだけ正確に利用者の状態を伝えることができるのか、だとわかりました。服薬については誤薬しないように気を付けて支援していきたいと思いました。
検査前に利用者の日常での変化に気付くことが必要ということや、薬の難しさや大切さを知ることができて良かったです。
服薬ミスは医療事故になるということを知ったので、服薬する際はもっと注意して確認しながら行っていこうと思います。
色々な検査の画像を見ることができて勉強になりました。
高齢者は内服薬が多く、副作用にかかりやすいため、十分利用者の日常生活を把握し、急変に気付くようにしたいと思いました。また今日の講義を受けてみて、薬の大切さがわかりました。
服薬による副作用の症状と思われる状態は現場で見ることが多いと感じたので、気付いたら看護師に相談し、その後のケアを考えていく必要があると思いました。

薬には様々な副作用があり、注意しなければならないと認識しました。
薬のことは看護師任せにせず、どういう薬か知り、患者が飲みやすいよう介助したり、どういう副作用があるのかを学び、何かあればすぐに報告できるようにしていこうと思いました。
高齢者の方は個人差が大きく、それぞれの方を総合的に見ていかなければいけないと思います。薬を飲んでいての方は特に注意し、服薬が重複していないか、また飲み忘れがないかなどの確認が必要だと念頭に置いておかなければいけないと感じました。薬を飲まないこともいけないが、飲むことによって副作用を起こしやすいということも注意しておかなければいけないと思います。薬が日常生活動作に悪影響を与えていないか、日々の観察を行うことは大切だと思いました。また薬によっては一緒に摂取してはいけないものもあるので、把握しておかないといけないと思います。高齢の方は脱水を起こしやすいので、こまめな水分補給も大切だと思いました。
薬は用法・容量を守って飲まなければいけません。温度が高くなるような所に置いたり、多剤内服をすると折角の効果が失われることがあります。もし服薬ミスしてしまった場合は、直ちに看護師や医師などに相談し、適切な方法を取っていただくことが正しい選択であると学びました。眠前薬を飲む場合は十分に転倒に注意すると共にベッドの上で飲んでいただくのが良いと思います。また軽い気持ちで薬を扱うのではなく、しっかりと注意を払って服薬をしていこうと思いました。
薬によって飲み合わせが合わないものがあるので、気を付けたいと思います。
薬の名称などがとても難しく、まだまだ理解できていませんがしっかりと勉強していきたいと思います。
少し馴染みのない課題でしたが、大変勉強になりました。
検査については大まかなことは理解できました。薬の説明については今後のケアの注意点として復習し、覚えていきたいと思います。
わかりやすい説明でした。薬の副作用を理解し、1人1人のケアにあたりたい。
薬は看護師がほとんど行うため、眠剤と下剤くらいしか行ったことがないので、もう少し勉強した方が良いと思いました。
薬の知識についてはほとんど習得していないので、大変勉強になりました。血圧の薬を飲んだ後には入居者の様子観察や再検査を行ったり、低血糖などの症状にもすぐ気付けるように観察力を身に付けたいと思いました。
服薬方法や分類・相互作用などを説明していただき、参考にできるお話を聞かせていただけてとても良かったです。
薬の効果や食べ物で効果を増大させたり、減少させたりすることがあるということが学べて良かったです。
高齢者は自覚症状に乏しく、検査所見と違う時があるため、利用者の訴えをよく聞き、いつもの違いに気が付く・観察することが大事だとわかった。
映像とデータを交えて詳しく説明していただけたので、よく理解できました。
服薬の悪い組み合わせを知ることができました。何でも薬に頼るのは良くないと改めて思いました。また食事の中に薬を混ぜて介助をしていましたが、それがいけないことであると理解できました。
よく耳にする薬の名前が出たので、勉強になりました。薬を飲むのも食べ物にも注意する必要があることを再認識しました。
高齢者は成人とは異なる部分が多いし、毎日の観察は大切であると感じた。誤薬も医療事故に繋がる恐れがあるため、管理や配薬に気を付けて行っていかなければいけないと思いました。
グレープフルーツジュースは薬によって飲んではいけない薬があると知って気を付けなければいけないと思った。またボーッしたり冷や汗などが出た場合は低血糖が疑われるので、ジュースなどを飲ませると良いことがわかった。
臨床検査についてCTやMRIなどの見方を学ぶことができて大変良かったです。
薬の飲み合わせ等がわかりやすいが、内容は難しかった。検査方法は色々あると知ることができて良かった。
内容的には難しかったです。知識として少しでも覚えていければと思います。
検査の方法・種類・違い、薬についての知識と高齢者の疾患上の特徴がよく理解できました。
ゼリーなどによく薬を混ぜているので、講義を受けて改めて反省しました。なかなか画像の話や医師からお話を聞く機会がないので大変勉強になりました。
薬の投薬や症状と対応の仕方など基本的なことを学べて良かったと思います。
施設で働いていると検査などに関わるのが少ないため、難しく感じましたが、しっかりと観察を行い、ちょっとした変化に気付けるようにしたいと思います。薬は誤薬も服薬ミスも医療事故に繋がるため、十分に注意が必要であると思いました。

講義Ⅳ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 2 進藤晃
当施設には気管カニューレの患者も人工呼吸器の患者も沢山いるので、とても勉強になりました。実際にどのような理由で今の状態になっているか知れたので、これからは活かしていきたいです。
吸引のプロセスと流れと手順がわかりました。
私の施設に人工呼吸器を使用されている方がいないので、難しく感じました。人工呼吸器の必要性を理解し、ケアしていきたいと思います。
人体について知ることはとても奥が深く難しいと思いました。しかし、それを知っていることでプロとして自信を持つことができると思いました。
気管吸引に伴うリスクが大変怖いものであるとわかりました。呼吸の流れを勉強できて良かったです。
人工呼吸器による呼吸は非生産的だということがわかりました。
肺の機能を何度も説明されたので、そこが大事な部分なのだと思うことができ、確認がしやすかったです。ただ、医療部分は少

しわかりづらいつ感じました。
ビデオを用いた講義でわかりやすく理解できた。最後に確認問題を作っていただいたので、覚えやすくとても助かりました。
たんがどう発生するのか、肺の働きなどについて勉強になりました。
呼吸のメカニズムがよくわかった。
人工呼吸器や気管カニューレなど実際には見たことがないので、実物を見ることができればよりイメージしやすいのではないかと思います。
喀痰吸引は苦痛を伴い、人工呼吸器を止めて行うので手早く済ませる必要がある。介護士も喀痰吸引に携わるので復習を行いたいと思います。
副雑音というものには様々なものがあり、それによって原因が変わってくることを知りました。
難しい内容でしたが、丁寧に説明していただき、わかりやすかった。患者の状態をよく見て呼吸状態を聞きながら行っていきたいと思う。
たんがどのようにして発生し、それが貯留することによってどのようなことが起こるかということがわかりました。私達のように自分でたんを出せるものは良いですが、自分で排出できない方にとっては生命に関わることでありと認識し、喀痰吸引を行わなければいけないと思いました。また間違った仕方をするのが感染症を引き起こしたりもするので、正しい知識と技術を得ることは必要だと思いました。
吸引をする際、相手の表情で感じながら傷を付けないように吸引するというのが1番の課題だと言えます。しっかりとした吸引に関する基礎知識を身に付けた上で施行するのが目標です。患者のたんが絡んでいる音についても「この音はおかしい」と様子をうかがったり、時と場合によっては看護師・医師と連携して瞬時に対応するのが非常に大切だと思います。
人工呼吸器はあまり馴染みがなく、沢山知ることができて良かったです。過去問題の練習もできて良かったです。
人工呼吸器など複雑だが知識として覚えておく必要があると思った。感染に十分注意するようにしていきたい。また異常時に他職種との報告を速やかに行っていくよう努めたい。
資料と説明が難解で難しかったですが、大まかには理解できたと思います。
人工呼吸器など聞き慣れない単語などがあり、わかりにくく感じました。
人工呼吸器などは今まで縁がなかったため、よく分かりませんでした。内容も少し難しかったです。
たんが発生する仕組みやたんを排出させる体位があることを今回の講義で初めて知りました。まずはたんの吸引をしなくても良いようなケアに努めたいと思います。
肺の構造・呼吸の仕組みなどわかりやすく説明していただき、参考になりました。肺の呼吸と循環の説明や人工呼吸器と気管カニューレの説明もあり、問題点なども開けてとても参考になりました。
「見て・聞いて・触れる」という3つが基本であり、重要であることを学んだ。事故になる前に関係者と事前に話をすることが大事であることがわかった。
呼吸について再確認することができた。人工呼吸器と呼吸器装着の内容について教えていただいた。
少し難しかったですが、ポイントを重視しながらの講義だったので良かったです。
吸引時の事故や急変に対しての心構えができました。きちんと実習に向けて勉強したいと思います。
たんの発生のビデオを見て仕組みがとてもわかりやすかったです。もっと興味を持って勉強していこうと思いました。また呼吸の方法についても改めて学ぶことができたので、利用者の気持ちをまず理解し、実施していきたいと思いました。
気管支炎で気管支が狭くなると、咽頭でゴロゴロした音がするということがわかった。また事故発生時の事前対応として予防策を共有しておくことが大切だと思った。
たんの吸引における呼吸の状態について色々を知ることができ、良い勉強になりました。
経験がないことなので、理解が難しい所もあったが、重要なことだと思った。
喀痰吸引の方法や何故行うのかなどを丁寧に教えていただきました。
人工呼吸器など日頃は目にするのが少なく、わからないことも多かったのですが、説明を聞いて仕組みがわかりました。
基本的な部分を少し理解できたと思います。ありがとうございました。
肺・気管の構造など理解できましたが、難しく少し分りにくい所もありました。
難しい講義でしたが、これから関わっていくことになるので、今日勉強した内容を活かしていきたいと思います。
医学的なことでとても難しかったです。
たんは粘りがあると排出しにくいので、口腔ケアやネブライザーを使用し、口腔内の湿潤に注意する必要があると学んだ。

講義Ⅴ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論3 北島美和子
今は子供の吸引を行う機会はありませんが、今後のためにも勉強になりました。吸引の際の数値的な違いはありますが、基本的な考え方と対応は変わらないので、気を付けていきたいです。
吸引の際の配慮や清潔に関する注意点など自分の病院ではできていないことが多くショックだった。自分が行う際は気を付けた。
清潔・不潔・滅菌についてよくわかりました。
吸引を受ける利用者の気持ちを理解して、きちんと説明ができるようにしたいと思います。吸引による危険についても事後の安全確認について冷静に対応し、報告できるようにしたいと思います。